



川中だより

令和6年2月29日(木)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第11号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

校長 清水 謙一

1月1日に起きた能登半島地震で、被害を受けた被災者の方々の報道を毎日のように目にする新年のスタートでした。その報道を目にするたびに、心が痛む思いであると同時に、自分自身そして学校として何ができるかを考える毎日でありました。

改めて、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

そのような中、当校の2年生は3月に北陸地方に修学旅行に行く予定です。しかし、今回の災害があって生徒達からも「こんな時期に旅行に行っているのだろうか」という自問の言葉を耳にしました。学年部の職員と協議し、保護者の皆様からご意見を頂戴し、市教育委員会の指導も仰ぎながら、最終的には予定通り3月に修学旅行に行くことに決定しました。この間、修学旅行に関する説明会では保護者の皆様から様々な視点からのご意見をいただきましたので、それを踏まえよい修学旅行になるよう準備をしているところです。

そこで、2年生の生徒達には「被災地のために自分たちでできることは何か」を考えてもらいました。その結果、2年生や生活JRC委員会が中心となって、校内で義援金の募金を行ったり、アルミ缶回収協力のお手紙を作成し、地域に配布したりして、この活動を通して集まったお金を日本赤十字社に贈呈することにしました。

地域にお手紙を配布した結果、先々週あたりから続々と大きなビニール袋に入ったアルミ缶類が学校に届けられ、今では収集場所にあふれんばかりの量になりました。また、保護者からだけでなく、何人もの地域住民の皆様から直接学校に義援金が届けられたり、「回覧板を見て、川東の子ども達の心意気が嬉しい」と応援や激励のお電話をいただいたりと、生徒達が始めた活動の影響に驚くと共に、保護者の皆様を含めた川東地域の皆様の温かいお心遣いに感動いたしました。本当にありがとうございます。

さて、話は変わって、早いもので3月4日の卒業式をもって3年生が卒業します。

現3年生の中学校生活は、まさに感染症との戦いだったのではないのでしょうか。3年生が小学5年生の3月に日本全国が一斉休校となり、多くの活動を制限されたまま小学校を卒業し、中学校に入学しました。中学校に入学してからも授業、学校行事等の教育活動や多くのPTA活動が制限され、思い描いていたことと大きくかけ離れたものだったのではないのでしょうか。修学旅行も、一泊二日の県内旅行と日帰りの県外旅行に分散しました。

しかし、そのような中でも3年生は下を向いて消極的にならず、仲間とのかかわり合いを積極的にもち、授業中等でも「話し合う、教え合う活動」を活発に行っていました。また、教師の指示を待って何か行動するのではなく、教師の助言を参考にしながらも、その多くを自分達で企画・準備し、様々な活動を運営できる行動力のある頼もしい3年生でした。

中学校までは、お互いをよく知る同級生が多い中で、そのようなレベルの高い活動ができましたが、高校へ進学すると様々な地域から集まった生徒達と交流しなければなりません。人間関係もゼロからのスタートになり、時にはそれがストレスや障壁になることもあるでしょう。しかし、この川東中学校で培った自主性、主体性、行動力を忘れず、進んだ道でも大きく飛躍してほしいと職員一同、心から願っています。そして、応援しています。